

## 資料 2: 阿見町の政策推進における公共交通への課題

平成 20 年度に実施した阿見町各課へのアンケートの結果からは、政策推進において次のような課題やその背景として次のような点が指摘されました。

公共交通全般	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自家用車への依存が進んでいる</li> <li>● 公共交通への意識の低下を防ぐことが必要だが容易でない</li> <li>● 住宅地や目的地が分散しており、路線バスのルート設定がむずかしい</li> <li>● 行政は町民への基本的な行政サービスとして移動を保証して行くことが行政の役割</li> <li>● 行政の支援がなければ、民間事業者は維持存続ができない</li> <li>● 阿見町の集落や市街地の状況に応じた多様な形態が必要</li> <li>● 事業者からの協賛金を考えるなどを含めた財源確保が重要だが容易ではない</li> </ul>	
地域別のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 荒川沖駅への依存が高いと思われるので、荒川沖方面への整備が求められる</li> <li>● 土浦・荒川沖駅だけでなく、ひたち野うしく駅、つくば市、牛久市等、近隣市町村への移動が困難</li> <li>● 交通空白地帯が広がっており、高齢者や子ども、障害者などの買い物や通学、通院などが困難になっている。(自家用車のある世帯でも、日中は高齢者だけになってしまう)</li> <li>● 特に、小池までのバス路線の廃止の影響は大きかった</li> <li>● 高齢者等の利用する生活路線として、町内公共施設及び商店街、最寄りのJR駅までの循環バスが必要</li> </ul>	
サービス水準について	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 路線バス等のルートがわかりづらい</li> <li>● 料金、頻度等のサービス水準が低い</li> <li>● 料金の一元化による利用しやすいカード等を活用したシステムの検討</li> </ul>	
各課の政策の視点から	
民生部社会福祉課	小さな集落が広い面積の中に散らばっているため、公共交通を整備するにも福祉バスを走らせるにも非効率的になっている
民生部障害福祉課	低床バスに対応した停留所の段差解消が課題
生活産業部商工観光課	生活の多様化に適した、町内及び周辺市町村との縦横のネットワーク化が望まれる
生活産業部町民活動推進課	町民活動センターの公共交通の利便性が悪い
教育委員会学校教育課	小中学校の通学のため、バス会社に対して助成およびスクールバスを運行しているが、これらを確保することが必要 高校のスクールバス・企業の送迎バス等の専用バスへの依存が進んでいる
総務部総務課	ノーマイカーデー等の取り組みに、路線バスの撤退が影響をうける 公務出張等の際、最寄の駅へのアクセスが不便
民生部健康づくり課	総合保健福祉会館の公共交通の利便性が悪い 健康診査の会場までの足の確保ができないため、受診率の低下の1つの要因につながっていると思われる(町民活動推進課からも同意見) 高齢者向けの教室等の開催で送迎の負担があり、教室拡大のネックになっている
都市整備部区画整理課	南平台から土浦駅へなど、路線の効率が悪い 西部開発区域への誘導として、荒川沖駅、本郷ふれあいセンター、朝日中、本郷小、を巡回する路線も一考に値する
教育委員会生涯学習課	総合運動公園の駐車場混雑を緩和させ、施設利用促進が図れるとよい(各種団体等の大会時における)
教育委員会中央公民館	阿見町におけるターミナルを何処にするか、たとえば中央公民館なのかが、キーポイント
消防本部総務課	車を利用できない町民、来庁舎(高齢者)が年々増加している 遠距離からの来庁者や町民でもタクシー利用が少なくない(消防署からも同意見)